

講演と踏査—四川省 2017年10月

四川大学、四姑娘山自然保護区、大渡河流域の未踏峰

中村 保

第1部 講演—四川大学～四姑娘山

2017年、6月に引き続き10月に今年二回目の四川大学での講演に招聘された。「第六回国際山岳アウトドア安全保健会議（The Sixth International Conference of Mountain Outdoor Safety and Health）」と名打った行事である。場所は成都と四姑娘山自然保護区の二か所で行われた。会議は四川大学と四姑娘山管理局が主宰し四川大学体育学院が協力した。10月11日から13日の4日間開催された。

海外から招聘されたスピーカーは小生と香港登攀クラブのHo Chi Mingさんの二名、小生は「東南チベットと四川西部高地の山」（四川大学）と「ヒマラヤ空撮：カトマンズ～ラサ～成都」（四姑娘山管理局）を、Ho Chi Mingさんは香港におけるトレッキングとクライミングについて紹介した。香港は長寿国、健康管理、街をあげてのアスレティック、太極拳などに熱心なことも紹介された。

中国側のスピーカーは四川大学では大学教授や研究家の「高所医学と高度順応・健康管理」「登山の安全対策」「登山探検史」など可なりアカデミックがプレゼンテーションであった。午前がプレゼンテーション、午後は中国隊初の南極登山の映像が紹介された後は、質疑応答とディスカッションが活発に行われが。中国の皆さんは中国の山について知識が乏しいので、小生の情報には熱心に耳を傾けてくる。小生が招聘される所以である。若い方が参加者の大半で日本とは違う、との印象を強くした。

四姑娘山では管理局局長が主導し、中国のシャモニーを目指して観光開発が進められている四姑娘山の自然保護をメイン・テーマにした現状の紹介が行われ、その後講演とパネル・トークが続いた。二日目は充実した博物館の見学と景勝地・双橋溝へのツアーが企画されていた。現地在住の写真家、大川健三さんの自然環境啓発博物館へも参加者を案内した。

中国の都市の発展は急速である。特に内陸都市、成都是西部開発の拠点であり開発のテンポは目を見張る。成都での会議は、新設間もない高速鉄道のターミナルを見降ろす巨大はホテルで開催された。成都から四姑娘山鎮（もと日隆）まで、成都市街を抜けて高速道路に入れば、巴郎山トンネルが2016年秋に開通したことにより、従来一日かかった行程を僅か三時間で行くことができる。交通インフラの整備はここだけに留まらない。



左から香港登攀クラブHo Chi Minさん、中村、四川大学観光学院程励教授、別の教授



午前中のセッション：プレゼンテーション（1）



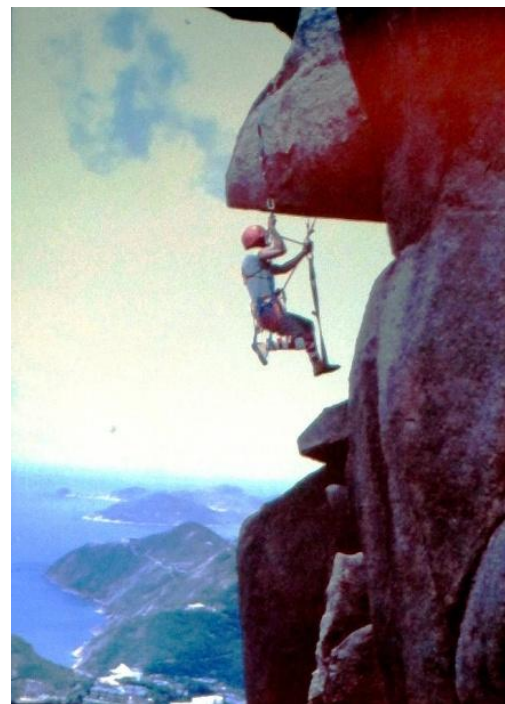
午前中のセッション（２）若者が多数参加、熱心に聞き入る



（左）劉勇四川大学体育局主任、會議主催責任者、（右）中村



午後のセッション：南極登山紹介、ディスカッションと質疑応答



香港におけるクライミング活動



四姑娘山管理局、阿坝州体育局、四川大学体育局共同主催の国際会議



四姑娘山鎮のチベット族の娘さんが会議参加者を歓迎



(右) 四姑娘山管理局局長



四姑娘山自然博物館、野生の雉の剥製



パネル・トーク 右端の劉勇四川大学体育局主任がリード、左端3人は四川大学教授



大川健三自然保護啓発博物館にて





景勝地—双橋溝の5,000m岩峰西面



映秀にある 2008 四川大地震の記念博物館

第2部 踏査—大渡河流域の未踏峰

講演の後、東チベット行きを目論んだが、外国人規制がますます厳しくなり、許可の見通しが立たないので、至近な位置にある成都から夾金山山塊の大渡河未踏峰を探ることにした。5,000—5,7000mの岩峰群の多い山域で体系的な探査は行われていない。言わば「灯台下暗し」である。かねてから気にかかっていたので、今回踏査を試みることにした。メンバーは老年探検隊のいつものペアの永井・中村と四川大地探検会社の張継躍社長、気心の知れた三人組である。

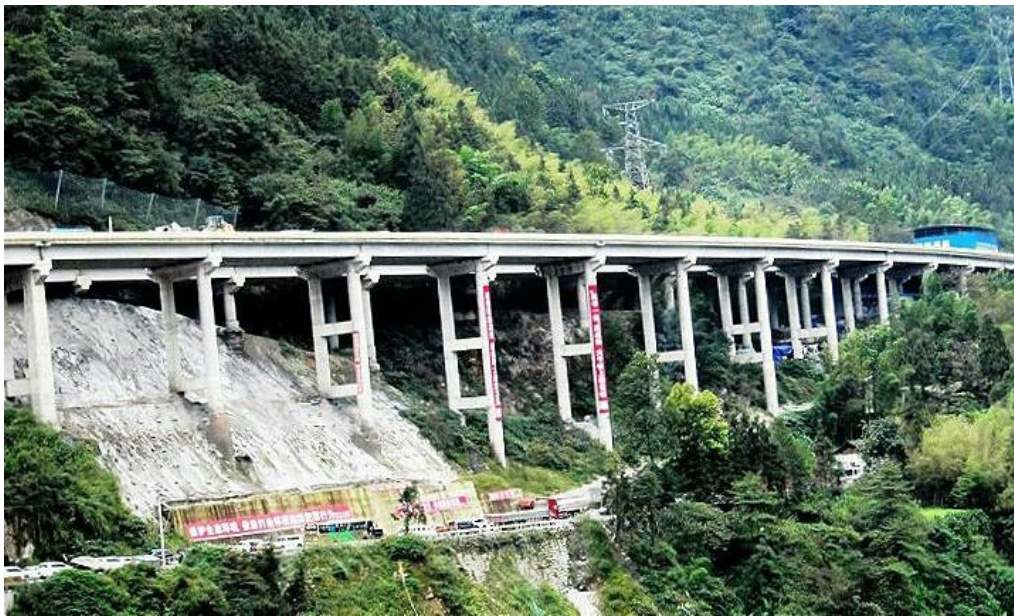


大渡河流域の探査は2007年に張継躍と行ったが、谷が深く展望がきかず、得るところは無かった。今回は20年ぶりの探査である。日程を記す。

- 10月16日：曇、成都—瀘定—姑咱（Gusa大渡河河畔）紅雪連大酒店泊
- 10月17日：曇後晴、姑咱—金湯（大渡河左岸支流の谷）—姑咱
- 10月18日：曇後晴、姑咱—康定—木格措—康定 康定情歌大酒店泊
- 10月19日：霧後快晴、康定—（新道）—康定空港—塔公—八美—丹巴 丹巴酒店318泊
- 10月20日：晴、丹巴—頂果山—丹巴
- 10月21日：曇、丹巴—大渡河を下る—丹巴
- 10月22日：曇後雪後曇、丹巴—四姑娘山鎮—成都

成都—康定高速道路

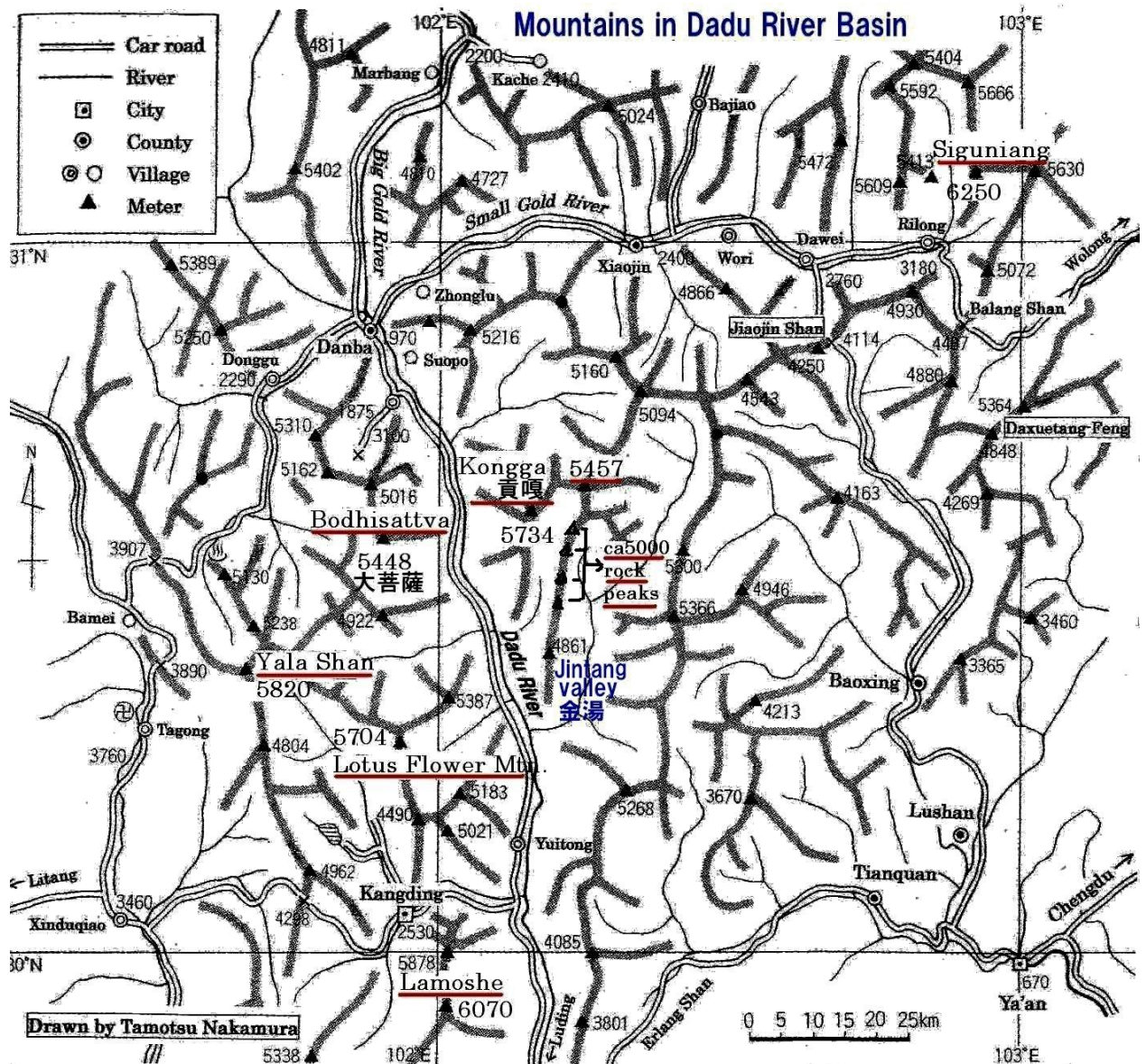
橋梁とトンネルで繋ぐ山間地の高速道路の建設は全土で進行している。自然破壊はお構いなしである。成都から雅安の高速道路が康定まで伸びれば、成都から康定まで僅か3時間で行かれるという。まずは探査の出発点となる大渡河沿いの姑咱1480mに入った。



雅安から先の高速道路の橋梁建設

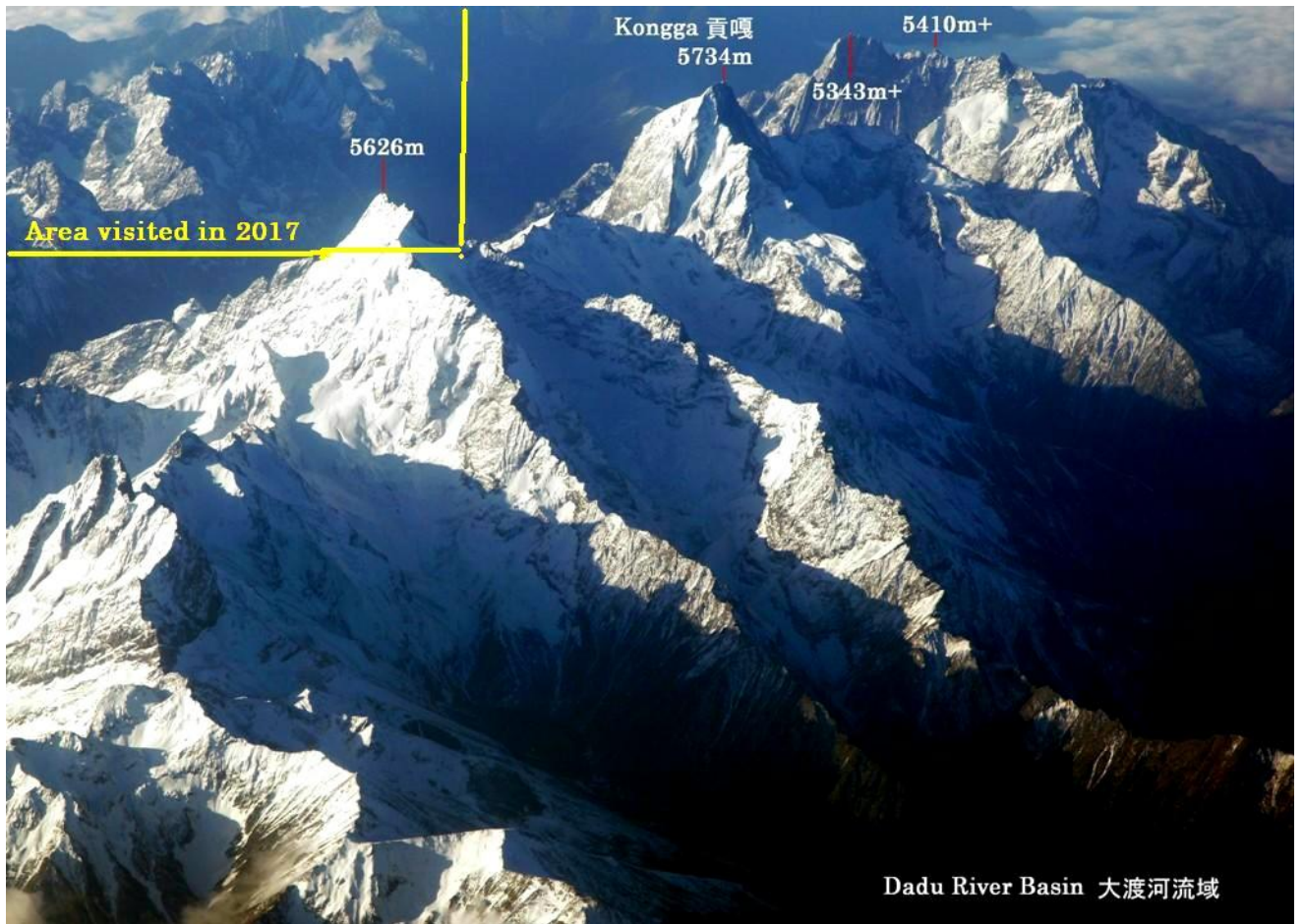


瀘定の北、大渡河に架ける高速道路用の吊橋の大規模工事

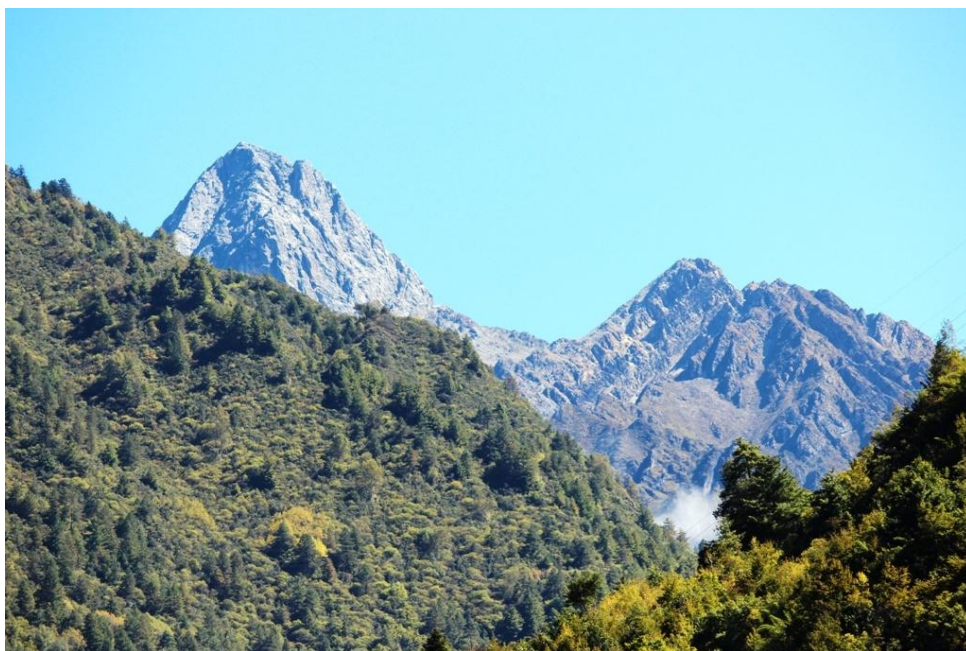


金湯谷の岩峰群

大川健三さんの写真と成都ラサ間の空撮で見る貢嘎5734mは風格のある鋭峰である。この山にアクセスするのが第一目標であった。しかし、瀘定—丹巴間の道路が土砂崩れで不通になっていたため、やむを得ず一つ下流の金湯への谷に入って、貢嘎の東側の5,000m岩峰群を踏査することになった。知られざる岩峰群を写真に収めることができ、結果は思わぬ収穫であった。四川の山は多様で奥が深い。姑咱から大渡河右岸の道を進み25kmほどで左岸に渡り金湯への谷に入った。金湯郷2030mを起点に探査した。道路は夾金山山塊の中心部を通過して丹巴から四姑娘山鎮に至る途中の小金に繋がっている。この谷の両岸に5,000—5400mの岩峰群が連なる。



左上の線で囲われている山塊を今回東側から写真に収めた



金湯谷の東側の5,300m（左のピーク）岩峰西面



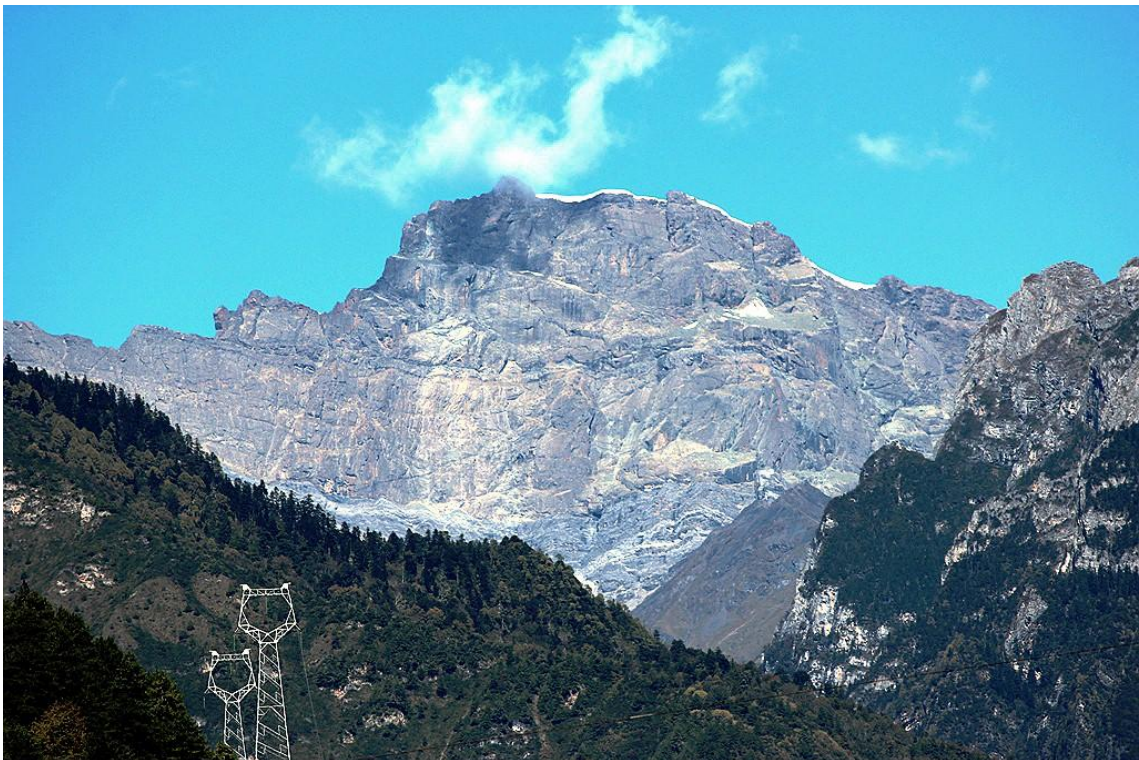
金湯谷左岸、岩峰群最奥の5457m峰南東面



金湯谷左岸の5,000m岩峰東面（1）



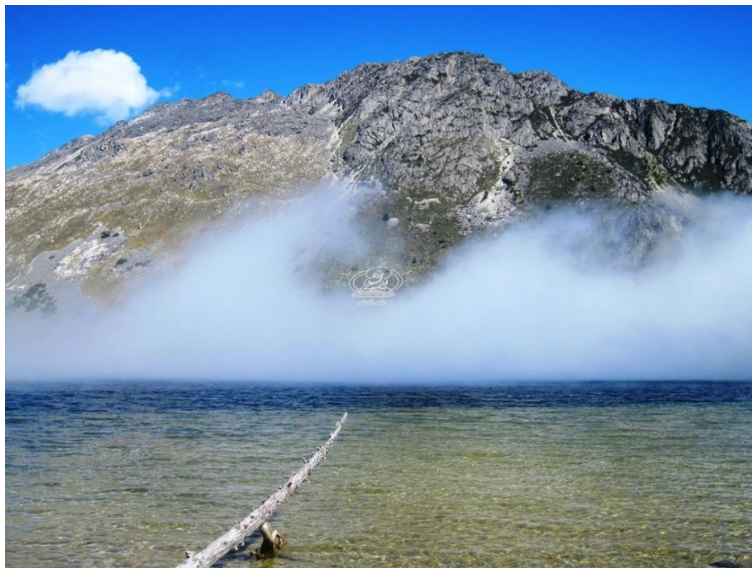
金湯谷左岸の5,000m岩峰東面（2）



金湯谷左岸の5,000m岩峰東面（3）

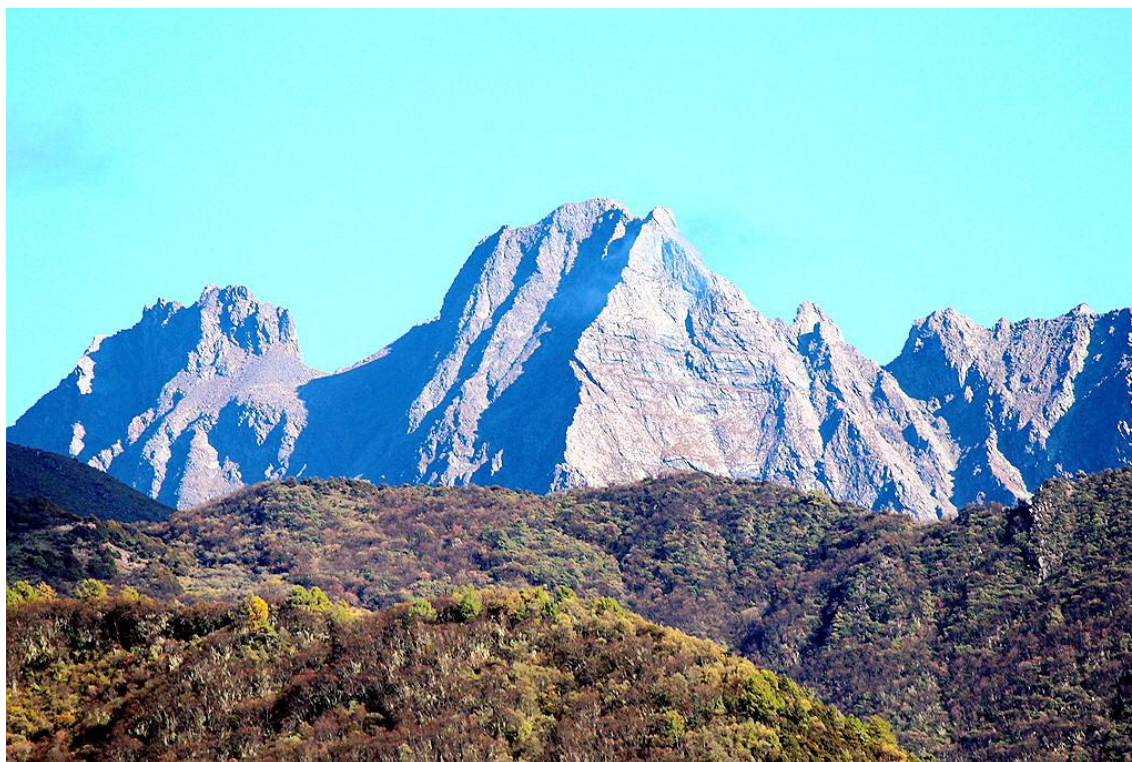
木格措、新道を塔公から丹巴へ

金湯谷の岩峰群探査の後、大渡河沿いに丹巴へは土砂崩れのため不通、康定から塔公高原経由で丹巴に行った。途中、景勝地、木格措（3780m）を往復する。中国人観光客で賑わっている。景勝地の観光には自家用車の乗り入れはできない。シャトルバスで往復する。



木格措

途中、蓮華夕照連山の5,000mクラスの岩峰群を見る。秋なので雪はついていない。



蓮華夕照連山 5,000mクラスの岩峰、西面

康定から空港を経て草原を塔公に出る川蔵公路の東側の新道の眺望は素晴らしい。中でもラモシェとミニヤ・コンカの北西面のパノラマは特筆される。新しい一級の展望台である。



ラモシェ山塊 北西面 康定から空港への新道より望む



ミニヤ・コンカ 7556m 北西面 康定空港付近4400mより望む



Mt. エドガー 6618m、嘉子峰6540m、中山峰6886m、グローベナー6376m 北西面

康定空港から新道は北に進んで塔公高原で川蔵公路に合流する。「墨石公園」という小石林の新しい観光スポットがある。それから先は従来通りで、八美3530mで川蔵公路から離れて丹波への道を辿る。名峰雅拉山（海子山5820m）の展望台は観光用に整備されている。



墨石公園 新しい観光スポット、雲南省昆明近郊の石林を意識して造った



名峰·雅拉山5820m (別名·海子山) 南東面



名峰·雅拉山5820m (別名：海子山) 北面

大菩薩5448mはいずこ一頂果山と名刹

10月19日に丹巴1880mに入り3泊する。大渡河の峡谷にへばりついた町ではあるが、発展し河沿いに新市街がのびている。旧市街は駐車が大変なので街外れのホテルに泊る。大川健三さん一家と何年か振りかで夕食を共にする。大川健三さんは丹巴に来て既に17年、67歳、チベット族の奥さんとの間の息子さんは中学三年生になり、成都の高校に入りたいと言っている。

今回の踏査の二つ目の目的は大菩薩(Bodhisattva) 5448mを地上から目で見て写真に収めることである。20年越しの課題である。大菩薩は地図上では名峰・雅拉山の北東に至近の距離にある。しかし公路や谷筋からは見えない。この山域に精通している大川さんに情報を頂きヒントを得る。大川さんは丹巴から南南西、東谷の先の果頂山と谷を挟んだところにある名刹・頂果山擁忠佐欽嶺寺(四川省重要文化財)の近くで大菩薩の写真を撮ったという。見せてもらった。

翌日、頂果山へ行く。驚いたことに観光開発が始まっており、張継躍の知人である広東省の実業家がこんなところに「風景酒店」と名付けた立派なリゾートホテルを建てている。彼は15年前にミニヤ・コンカの海螺溝にホテルを建てている。確かに、丹巴地方はギャロン地方と呼ばれ、チベット族が住むエリアの東端であり、チャン族と住み分けをしていて固有の歴史・文化を持っている。建築様式が独特であり、歴史ある石塔が多く、観光資源となっている。また丹巴は「美人谷」として有名で美形が多い。美少女達が踊るお祭りは観光客を惹きつける。

「風景酒店」を辞去して大菩薩を望見するために対岸のお寺に行く。頂果山擁忠佐欽嶺寺は2,800年前に建立されたというからチベット仏教以前のボン教が起源であろう。樹齢千年以上の胡桃の木がある。ここから大菩薩山塊が見える。大川さんの写真と対比して確認をする。しかし印象的ではなく平凡な岩のピークである。いささか期待外れであった。周辺は5,000mクラスの岩山が連なっている。山腹斜面のチベット族の家屋が景観を彩る。空撮で反対方向から見た魅力的な大菩薩とは対象的だが、山容は見る角度により変化するのでいたしかたない。

10月21日、丹巴から大渡河を下ったがトンネルが多く景観を楽しむことはできなかった。もう一つの目的、丹巴の北の踏査も目論んではいたが、どうやら天候が悪化しつつあったので断念した。踏査を切り上げて、翌日10月にしては早い降りしきる雪の中四姑娘山鎮を経由して成都に帰着した。

終わってみれば、短期日ではあったが実り多い旅であった。講演の企画は充実していたし、

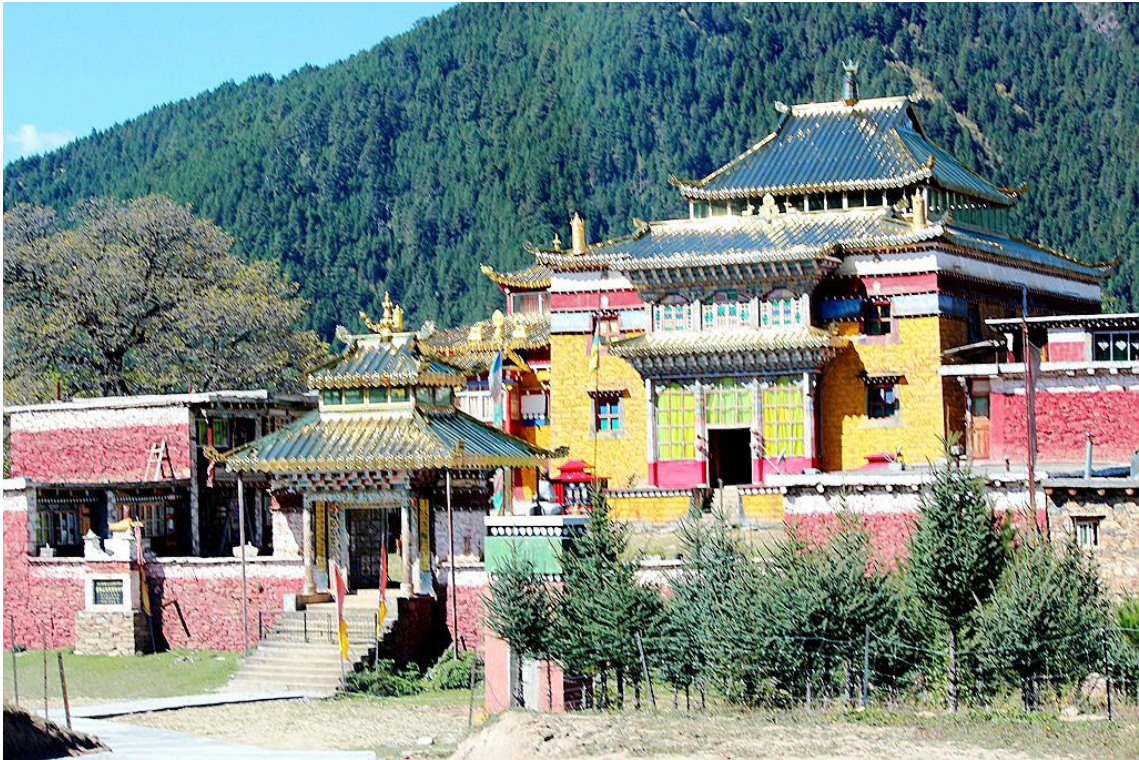
たくさんの四川大学の教授と学生と親しくなった。四姑娘山管理局の局長以下要人とも知己を得ることができた。



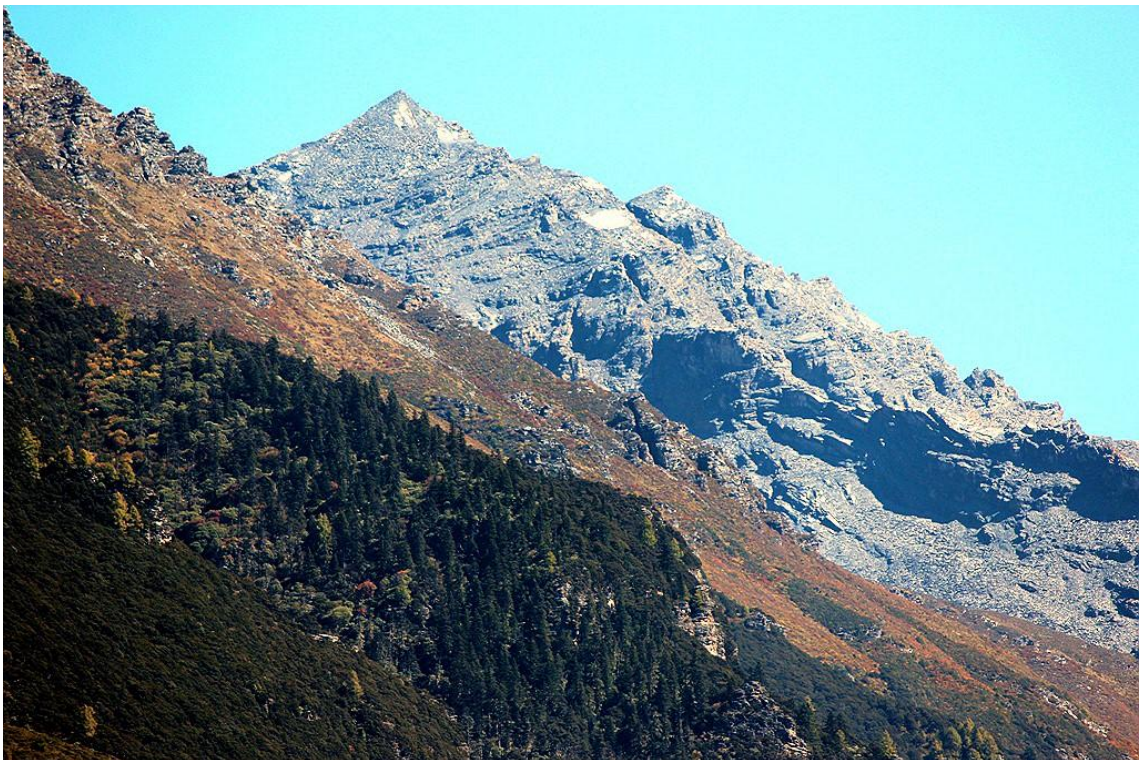
大菩薩（左端）空撮 成都からラサへの途上



頂果山 リゾートホテル風景酒店 3330m



頂果山擁忠佐欽嶺寺



大菩薩5446m 西面 頂果山擁忠佐欽嶺寺より望む



大川健三さんが撮った大菩薩 頂果山擁忠佐欽嶺寺付近より



頂果山付近のチベット族の民家



丹巴 美人谷の風情節の踊り 大川健三さん撮影



丹巴の石塔 800年の歴史